

名古屋の学区別昼間人口

～平成12年国勢調査 従業地・通学地集計結果～

はじめに

平成12年10月1日現在で実施された平成12年国勢調査について、昼間人口の学区別集計結果がまとまりましたので公表します。なお、本文、別表及び統計表において、平成7年以降に境界変更があった学区について、平成7年の数値の組換は行っていませんのでご注意ください。また、学区境界に変更があった学区のうち、常安学区(緑区)は平成10年4月1日に鳴海東部学区・徳重学区(いずれも緑区)から分離しましたが、異動面積が大きいためこれら3学区については増加数及び増加率を算出していません。

なお、末尾に「用語の解説」を掲載しておりますので、ご利用ください。

(全市及び区別の結果については、本誌2002年6月号及び「統計なごやWeb版」に掲載しております。)

名城学区(中区)が最大の87,250人、流入超過数は83,486人

平成12年10月1日現在の本市の昼間人口2,514,549人(年齢不詳を除く)を学区別にみると、昼間人口が最大の学区は名城学区(中区)の87,250人であり、次いで栄学区(中区)の77,917人、新明学区(中区)の66,880人と続いている。また、流入超過数においても、名城学区の83,486人がトップとなり、7位までは昼間人口と同順位であった。

これら昼間人口の上位7学区までは都心部の業務集積地に位

置する学区であり、この7学区で全市の昼間人口総数の14.3%と大きなシェアを占めている一方、全市の常住人口総数に占める割合は1.3%となっている。

[附表1-1]

附表1-1 学区別昼間人口、常住人口(昼間人口上位10学区)

平成12年10月1日

順位	学区名(区名)	昼間人口			常住人口			流入超過数
		(全市に占める割合%)	うち就業者	うち通学者	(全市に占める割合%)	うち就業者	うち通学者	
	全 市	2,514,549 (100.0)	1,425,173	350,914	2,148,949 (100.0)	1,109,920	300,567	365,600
1	名 城 (中 区)	87,250 (3.5)	84,218	2,015	3,764 (0.2)	2,230	517	83,486
2	栄 (中 区)	77,917 (3.1)	74,079	2,427	5,308 (0.2)	3,326	571	72,609
3	新 明 (中 区)	66,880 (2.7)	63,123	3,060	2,062 (0.1)	1,180	185	64,818
4	御 園 (中 区)	43,685 (1.7)	42,706	488	1,889 (0.1)	1,225	173	41,796
5	新 栄 (中 区)	30,759 (1.2)	26,264	2,303	6,261 (0.3)	3,481	588	24,498
6	六 反 (中 区)	26,926 (1.1)	24,167	1,765	2,875 (0.1)	1,605	276	24,051
7	東 桜 (東 区)	25,394 (1.0)	22,911	774	5,634 (0.3)	3,314	611	19,760
8	白 鳥 (熱 田 区)	22,715 (0.9)	12,798	6,264	11,671 (0.5)	6,220	1,798	11,044
9	東 築 地 (港 区)	21,391 (0.9)	16,977	759	10,736 (0.5)	5,384	1,697	10,655
10	滝 川 (昭 和 区)	21,092 (0.8)	8,310	8,342	14,925 (0.7)	7,305	3,180	6,167

附表1-2 学区別昼間人口減少数(上位10学区と主な学区)

各年10月1日

順位	学区名(区名)	昼間人口減少数	昼間人口	
			平成12年	平成7年
	全 市	-28,932	2,514,549	2,543,481
1	御 園 (中 区)	-7,730	43,685	51,415
2	白 鳥 (熱 田 区)	-6,367	22,715	29,082
3	東 築 地 (港 区)	-4,700	21,391	26,091
4	亀 島 (中 区)	-2,919	13,536	16,455
5	葵 (東 区)	-2,653	19,482	22,135
6	栄 (中 区)	-2,326	77,917	80,243
7	江 西 (西 区)	-1,918	9,475	11,393
8	橘 (中 区)	-1,748	12,549	14,297
9	矢 田 (東 区)	-1,739	19,642	21,381
10	船 方 (熱 田 区)	-1,737	13,295	15,032
21	新 明 (中 区)	-1,210	66,880	68,090
30	六 反 (中 区)	-895	26,926	27,821
34	東 桜 (東 区)	-818	25,394	26,212
152	名 城 (中 区)	98	87,250	87,152
232	滝 川 (昭 和 区)	733	21,092	20,359
242	新 栄 (中 区)	962	30,759	29,797

今回、全市の昼間人口総数は前回(平成7年)と比べて、28,932人減少したが、これを学区別にみると御園学区(中区)が7,730人減と最も大きな減少数となり、続いて白鳥学区(熱田区)が6,367人、東築地学区(港区)が4,700人減少している。御園学区では「卸売・小売業、飲食店」就業者及び「サービス業」就業者、白鳥学区では通学者、東築地学区では「製造業」就業者の減少によるところが大きい。

[附表1-2、附表3-3、附表3-4、

附表3-5、附表4-1]

一方、昼間人口減少率をみると白鳥学区が21.9%減と最も大きくなっている。また、前回より昼間人口が増加している学区は、市の周辺部に多いことがわかる。

[附表1-3、図1-1]

注)鳴海東部・常安・徳重の3学区(いずれも緑区)は、増加数及び増加率を算出していません。

附表1-3 学区別昼間人口減少率（上位10学区）

各年10月1日

順位	学区名(区名)	昼間人口減少率(%)	昼間就業者減少率(%)	昼間通学者減少率(%)	平成12年			平成7年		
					昼間人口	うち就業者	うち通学者	昼間人口	うち就業者	うち通学者
	全 市	-1.1	-3.0	-12.8	2,514,549	1,425,173	350,914	2,543,481	1,469,916	402,516
1	白 鳥 (熱田区)	-21.9	-12.6	-41.6	22,715	12,798	6,264	29,082	14,644	10,728
2	榎 (西区)	-19.4	-15.1	-43.5	6,385	4,089	1,057	7,923	4,818	1,870
3	東 築 地 (港区)	-18.0	-23.5	-14.5	21,391	16,977	759	26,091	22,204	888
4	亀 島 (中村区)	-17.7	10.0	-40.3	13,536	6,577	5,435	16,455	5,977	9,106
5	江 西 (西区)	-16.8	-4.6	-39.1	9,475	5,556	2,809	11,393	5,821	4,614
6	大 高 南 (緑区)	-16.1	-40.0	-24.0	2,714	370	942	3,233	617	1,239
7	高 田 (瑞穂区)	-15.4	-19.8	-22.7	6,726	2,932	1,424	7,952	3,655	1,841
8	御 園 (中区)	-15.0	-15.4	-6.9	43,685	42,706	488	51,415	50,478	524
9	大 和 (千種区)	-13.7	-13.7	-24.7	7,521	2,919	2,565	8,716	3,381	3,407
10	星 崎 (南区)	-13.1	-16.7	-15.2	9,816	7,753	245	11,295	9,308	289

注) 鳴海東部・常安・徳重の3学区(いずれも緑区)は、増加数及び増加率を算出していない。図1-1についても同様である。

昼夜間人口比率(常住人口に対する昼間人口の割合)をみると、最も高いのは新明学区の3,243.5で、昼間人口が常住人口の約3.2倍の規模となっている。続いて、名城学区が2,318.0、御園学区が2,312.6、栄学区が1,467.9と、これら都心部の4学区が際立った高さを示している。

図1-1 学区別昼間人口増加率

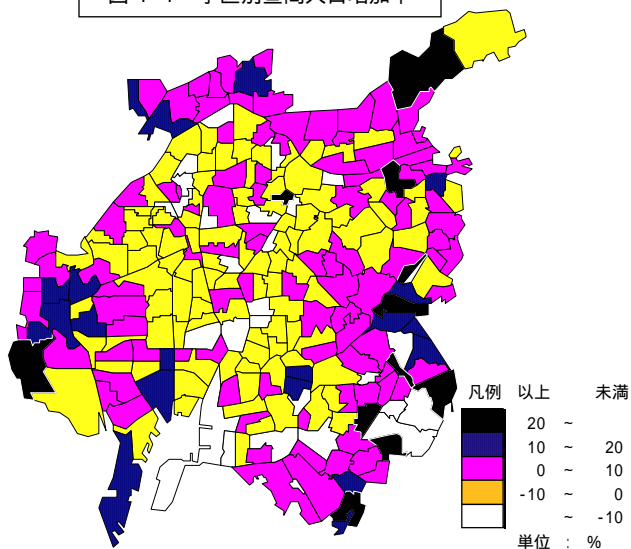
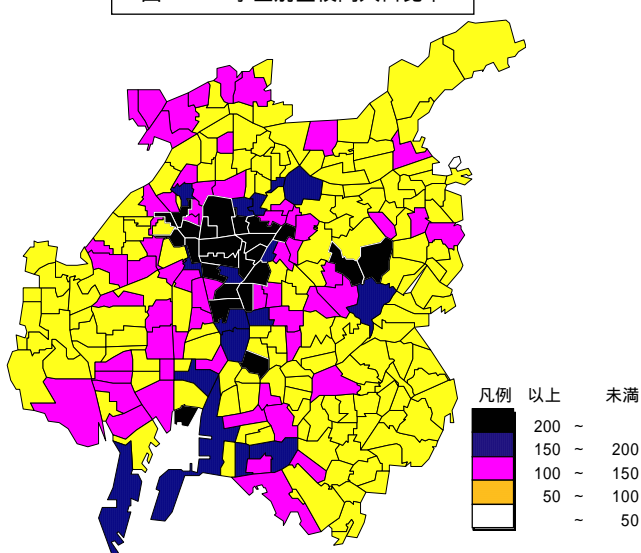


図1-2 学区別昼夜間人口比率



前回と比較すると、御園学区は133.4ポイントの大幅な低下を示し、新明学区が166.7ポイント、名城学区が287.0ポイントの大きな伸びを示しているものの、昼間人口の増加ではなく常住人口の減少によるところが大きい。 [附表1-4、第1表]

また、昼間人口が常住人口の2倍以上となる昼夜間人口比率が200以上の学区は24学区で、前回の27学区から3学区減少した。一方、昼間人口が常住人口を下回る昼夜間人口比率が100未満の学区は、前回の148学区から157学区へと増加している。 [附表1-4、図1-2、第1表]

附表1-4 学区別昼夜間人口比率（上位30学区）

各年10月1日

順位	学区名(区名)	平成12年	平成7年	上昇ポイント
	全 市	117.0	118.6	-1.6
1	新 明 (中村区)	3,243.5	3,076.8	166.7
2	名 城 (中区)	2,318.0	2,031.0	287.0
3	御 園 (中区)	2,312.6	2,446.0	-133.4
4	栄 (中区)	1,467.9	1,457.1	10.8
5	六 反 (中村区)	936.6	927.7	8.9
6	新 栄 (中区)	491.3	424.7	66.6
7	東 桜 (東区)	450.7	492.5	-41.8
8	牧 野 (中村区)	343.2	315.5	27.7
9	葵 (東区)	338.0	370.8	-32.8
10	平 和 (中区)	297.4	333.9	-36.5
11	亀 島 (中村区)	289.0	339.3	-50.3
12	江 西 (西区)	283.2	348.0	-64.8
13	大 須 (中区)	283.1	260.8	22.3
14	見 付 (千種区)	278.9	262.0	16.9
15	西 築 地 (港区)	274.2	274.7	-0.5
16	内 山 (千種区)	271.4	262.4	9.0
17	星 ヶ 丘 (千種区)	253.5	304.7	-51.2
18	鶴 舞 (昭和区)	245.1	235.6	9.5
19	穂 波 (瑞穂区)	238.4	238.8	-0.4
20	高 蔵 (熱田区)	238.2	214.8	23.4
21	白 金 (昭和区)	235.1	221.7	13.4
22	老 松 (中区)	213.7	226.5	-12.8
23	千 早 (中区)	211.2	194.3	16.9
24	松 原 (中区)	202.1	205.1	-3.0
25	東 築 地 (港区)	199.2	271.7	-72.5
26	大 坪 (天白区)	196.3	187.9	8.4
27	白 鳥 (熱田区)	194.6	233.8	-39.2
28	野 跡 (港区)	183.8	170.0	13.8
29	山 吹 (東区)	183.1	214.1	-31.0
30	白 水 (南区)	183.1	182.8	0.3

昼間人口密度(1k㎡あたり)は新明学区(中村区)が89,531人で最大

学区別に昼間人口密度(1k㎡あたり)をみると、トップは前回に引き続き新明学区(中村区)の89,531人で、全市平均7,703人の約11.6倍の規模となっており、5年前の11.7倍から横ばいとなっている。

新明学区に続いて、御園学区(中区)の68,472人、栄学区(中区)の60,401人が5万人以上、六反学区(中村区)の42,537人、名城学区(中区)の41,390人、新栄学区(中区)の37,420人、東桜学区(東区)の33,995人が3万人以上であり、昼間人口密度が3万人以上である学区は前回の8学区から7学区へと減少した。

[附表 2-1]

昼間人口密度が1万5千人以上の学区は26学区を数え、都心部の地下鉄沿線の業務集積地域を中心に分布している。中川区、港区、南区、守山区、緑区、名東区、天白区については、昼間人口密度が1万5千人以上の学区は皆無であり、守山区、天白区では、同1万人以上の学区も該当がない。

[附表 2-1、図 2-1、第 1 表]

昼間人口密度が最も低い学区は、志段味東学区(守山区)の948人で、260学区中唯一、昼間人口密度が千人を下回っている。また、トップの新明学区との間には94倍の格差があるが、前回最も低かった志段味西学区(守山区)と新明学区との格差(144倍)より縮小した。

[附表 2-1]

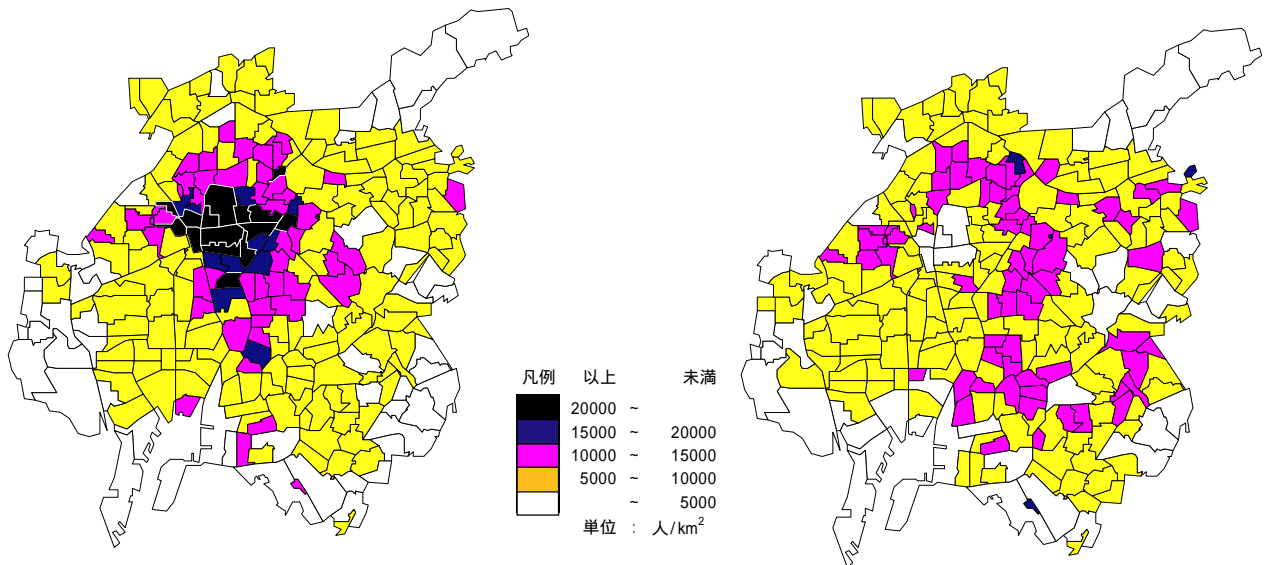
附表 2-1 学区別昼間人口密度・常住人口密度
(昼間人口密度上位20学区と下位10学区) 各年10月1日

順位	学区名(区名)	昼間人口密度(人/km ²)		常住人口密度(人/km ²)	
		平成12年	平成7年	平成12年	平成7年
	全市	7,703	7,793	6,583	6,570
1	新明(中村区)	89,531	91,151	2,760	2,963
2	御園(中区)	68,472	80,588	2,961	3,295
3	栄(中区)	60,401	62,204	4,115	4,269
4	六反(中村区)	42,537	43,951	4,542	4,738
5	名城(中区)	41,390	41,343	1,786	2,036
6	新栄(中区)	37,420	36,249	7,617	8,535
7	東桜(東区)	33,995	35,090	7,542	7,124
8	牧野(中村区)	29,376	28,735	8,559	9,108
9	大須(中区)	27,758	27,375	9,806	10,496
10	内山(千種区)	25,894	26,682	9,542	10,169
11	亀島(中村区)	25,444	30,930	8,803	9,117
12	平和(中区)	23,754	24,963	7,987	7,477
13	葵(東区)	23,501	26,701	6,953	7,201
14	老松(中区)	21,132	22,710	9,889	10,028
15	六郷(北区)	20,305	20,467	12,121	11,390
16	橋(中区)	19,396	22,097	11,518	11,731
17	江西(西区)	18,652	22,427	6,587	6,445
18	千早(中区)	17,578	16,769	8,322	8,631
19	山吹(東区)	17,295	17,998	9,444	8,407
20	那古野(西区)	16,838	16,621	12,346	11,761
251	大高北(緑区)	2,259	2,084	2,322	2,048
252	桶狭間(緑区)	2,219	1,803	3,298	2,859
253	大高(緑区)	2,184	2,093	1,972	1,960
254	鳴海東部(緑区)	2,089	1,835	2,864	3,007
255	小幡北(守山区)	1,895	1,839	2,882	2,773
256	南陽(港区)	1,314	1,399	1,216	1,284
257	野跡(港区)	1,282	1,156	697	680
258	西福田(港区)	1,073	883	1,100	1,040
259	志段味西(守山区)	1,011	631	1,191	738
260	志段味東(守山区)	948	1,005	1,138	1,210

図 2-1 学区別昼間人口密度と常住人口密度

(昼間人口密度)

(常住人口密度)



上位 5 学区に昼間就業者の 2 割が集中

学区別に昼間就業者をみると、名城学区（中区）の 84,218 人が最大であり、全市の昼間就業者数 1,425,173 人に占める割合は 5.9%となっている。以下、栄学区（中区）が 74,079 人、新明学区（中村区）が 63,123 人、御園学区（中区）が 42,706 人、新栄学区（中区）が 26,264 人と続き、都心部のこれら上位 5 学区で全市の昼間就業者数の 20.4%のシェアを占めている。

都心部以外では、名古屋港の臨港地域の大規模工場が立地する東築地学区（港区）が 16,977 人と高い数値がみられる。

一方、昼間就業者が最も少ない学区は前回と同じく本地丘学区（守山区）の 119 人で、そのほか明正学区（中川区）の 206 人、大高南学区（緑区）の 370 人、西前田学区（中川区）の 428 人が 500 人を下回る学区となっており、概ね市周辺部の住宅地に分布している。

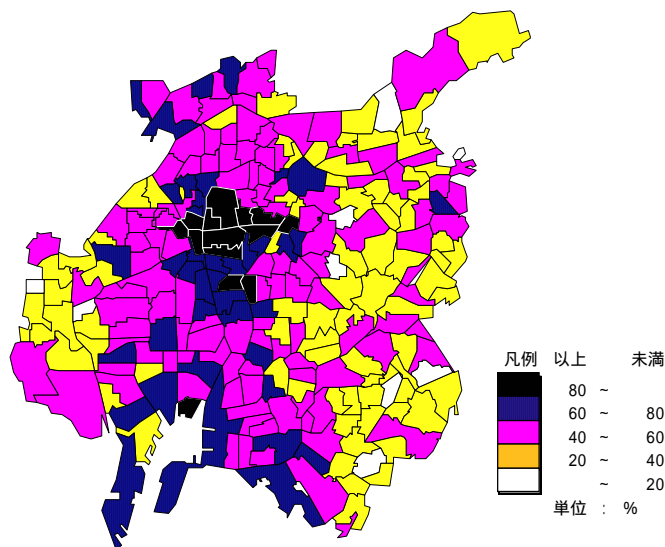
昼間就業者を 5 年前と比べると、前回、6,922 人（15.9%）増と最も増加した御園学区が 7,772 人（15.4%）減と最大の減少数を示した。続いて東築地学区が 5,227 人（23.5%）の減少となっている。

昼間人口に占める就業者の割合は、全市では 56.7%である

のに対し、御園学区が 97.8%、名城学区が 96.5%、栄学区が 95.1%と 9 割を超えている一方で、本地丘学区が 5.9%、明正学区が 8.4%と 1 割を下回っている。

[附表 3-1、図 3-1]

図 3-1 学区別昼間人口に占める就業者の割合



附表 3-1 学区別昼間就業者数（上位 15 学区と下位 15 学区）

各年 10 月 1 日

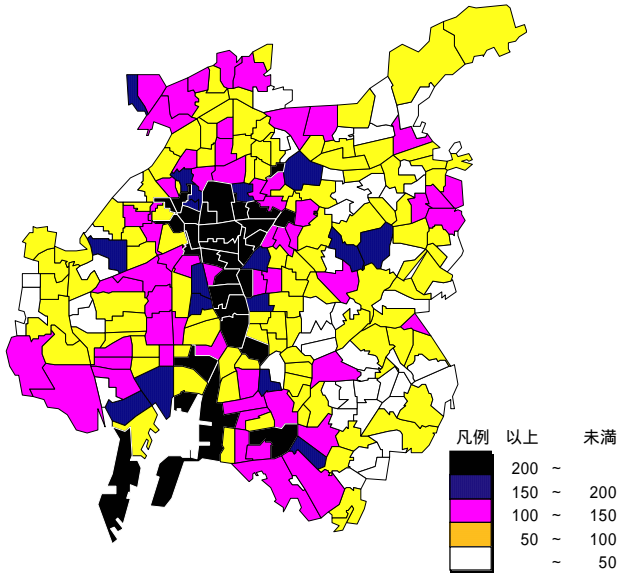
順位	学区名（区名）	昼間就業者数（全市に占める割合 %）		昼間就業者 増加数	昼間就業者 増加率 (%)	昼間人口に占める 就業者の割合 (%)	昼間人口
		平成 12 年	平成 7 年				
	全 市	1,425,173 (100.0)	1,469,916 (100.0)	-44,743	-3.0	56.7	2,514,549
1	名城（中区）	84,218 (5.9)	83,840 (5.7)	378	0.5	96.5	87,250
2	栄（中区）	74,079 (5.2)	75,762 (5.2)	-1,683	-2.2	95.1	77,917
3	新明（中村区）	63,123 (4.4)	62,679 (4.3)	444	0.7	94.4	66,880
4	御園（中区）	42,706 (3.0)	50,478 (3.4)	-7,772	-15.4	97.8	43,685
5	新栄（中区）	26,264 (1.8)	24,800 (1.7)	1,464	5.9	85.4	30,759
6	六反（中村区）	24,167 (1.7)	25,245 (1.7)	-1,078	-4.3	89.8	26,926
7	東桜（東区）	22,911 (1.6)	23,638 (1.6)	-727	-3.1	90.2	25,394
8	東築地（港区）	16,977 (1.2)	22,204 (1.5)	-5,227	-23.5	79.4	21,391
9	葵（東区）	16,527 (1.2)	18,319 (1.2)	-1,792	-9.8	84.8	19,482
10	大須（中区）	16,301 (1.1)	15,959 (1.1)	342	2.1	85.1	19,153
11	牧野（中村区）	15,513 (1.1)	15,539 (1.1)	-26	-0.2	80.4	19,300
12	平和（中区）	15,204 (1.1)	16,432 (1.1)	-1,228	-7.5	84.3	18,029
13	老松（中区）	13,770 (1.0)	14,480 (1.0)	-710	-4.9	79.5	17,328
14	内山（千種区）	13,424 (0.9)	13,920 (0.9)	-496	-3.6	84.4	15,899
15	高蔵（熱田区）	13,377 (0.9)	12,253 (0.8)	1,124	9.2	75.0	17,846
246	伊勝（昭和区）	939 (0.1)	881 (0.1)	58	6.6	10.0	9,408
247	大清水（緑区）	884 (0.1)	638 (0.0)	246	38.6	21.3	4,150
248	西城（守山区）	862 (0.1)	722 (0.0)	140	19.4	30.2	2,850
249	相生（天白区）	853 (0.1)	1,222 (0.1)	-369	-30.2	29.9	2,854
250	黒石（緑区）	817 (0.1)	857 (0.1)	-40	-4.7	29.5	2,772
251	桃山（緑区）	783 (0.1)	705 (0.0)	78	11.1	13.5	5,801
252	南押切（西区）	755 (0.1)	909 (0.1)	-154	-16.9	33.9	2,229
253	小幡北（守山区）	721 (0.1)	692 (0.0)	29	4.2	16.9	4,275
254	常安（緑区）	701 (0.0)	25.5	2,749
255	平針南（天白区）	618 (0.0)	672 (0.0)	-54	-8.0	18.0	3,430
256	梅森坂（名東区）	612 (0.0)	591 (0.0)	21	3.6	21.4	2,861
257	西前田（中川区）	428 (0.0)	421 (0.0)	7	1.7	14.9	2,871
258	大高南（緑区）	370 (0.0)	617 (0.0)	-247	-40.0	13.6	2,714
259	明正（中川区）	206 (0.0)	211 (0.0)	-5	-2.4	8.4	2,461
260	本地丘（守山区）	119 (0.0)	158 (0.0)	-39	-24.7	5.9	2,010

注）常安学区（緑区）は、平成 10 年 4 月 1 日に鳴海東部学区・徳重学区から分離した。

昼夜間就業者比率（常住就業者に対する昼間就業者の割合）についてみると、新明学区が5,439.4、名城学区が3,776.6、御園学区が3,486.2、と、それぞれ昼夜間人口比率より高い数値を示している。また、昼間就業者数では8番目に位置する東築地学区は、昼夜間就業者比率では315.3と18番目に位置しており、新明学区など中心部に位置する業務集積地と比較すると、学区外から流入する就業者が少ないことがわかる。

[附表 1-4、附表 3-2、図 3-2]

図 3-2 学区別昼夜間就業者比率



昼間就業者を主な産業別にみると、「製造業」では、前回唯一1万人を超えていた東築地学区が13,068人から8,480人へと大幅に減少し、全市に占める割合も前回の5.0%から3.7%へと低下している。次いで穂波学区（瑞穂区）の6,597人、矢田学区（東区）の6,183人となり、前回と同順位であるがいずれも前回より減少している。

[附表 3-3、図 3-3]

「卸売・小売業、飲食店」では、栄学区が26,336人、新明学区が25,211人、名城学区が25,165人、御園学区が14,677人の順で並び、これら都心部の4学区で全市の21.6%を占めている。

[附表 3-4、図 3-4]

「サービス業」についてみると、「卸売・小売業、飲食店」と同じく栄学区の25,334人がトップで、以下名城学区20,752人、新明学区18,998人、御園学区12,602人、新栄学区が10,258人と、都心部の学区が続き、5学区が1万人を超えている。5年前に比べ新栄学区が62.3%、新明学区が32.1%、名城学区が20.8%の増加をみせ、全市の増加率8.5%を大きく上回っている一方で、御園学区は11.0%の大きな減少を示している。

[附表 3-5、図 3-5]

「公務」では、官庁街を有する名城学区が15,860人と飛び抜けて多く、全市の「公務」就業者の40.9%のシェアを占めている。次いで自衛隊施設を有する守山学区（守山）の2,023

附表 3-2 学区別昼夜間就業者比率（上位30学区）

		各年10月1日		
順位	学区名(区名)	平成12年	平成7年	上昇ポイント
	全 市	128.4	129.4	-1.0
1	新 明 (中村区)	5,349.4	4,639.5	709.9
2	名 城 (中区)	3,776.6	3,302.1	474.5
3	御 園 (中区)	3,486.2	3,534.9	-48.7
4	栄 (中区)	2,227.3	2,146.2	81.1
5	六 反 (中村区)	1,505.7	1,470.3	35.4
6	新 栄 (中区)	754.5	615.2	139.3
7	東 桜 (東区)	691.3	756.4	-65.1
8	葵 (東区)	500.8	537.1	-36.3
9	牧 野 (中村区)	499.8	453.8	46.0
10	平 和 (中区)	422.0	472.9	-50.9
11	西 築 地 (港区)	411.1	428.5	-17.4
12	大 須 (中区)	398.8	354.4	44.4
13	内 山 (千種区)	385.4	383.8	1.6
14	白 金 (昭和区)	340.2	318.2	22.0
15	穂 波 (瑞穂区)	336.2	307.3	28.9
16	高 蔵 (熱田区)	321.9	257.0	64.9
17	新 野 跡 (港区)	318.3	267.5	50.8
18	東 築 地 (港区)	315.3	443.7	-128.4
19	江 西 (西区)	303.8	302.4	1.4
20	千 早 (中区)	300.1	255.0	45.1
21	老 松 (中区)	277.3	283.2	-5.9
22	星 崎 (南区)	253.8	277.4	-23.6
23	亀 島 (中村区)	251.1	221.7	29.4
24	松 原 (中区)	238.9	239.9	-1.0
25	旗 屋 (熱田区)	233.3	219.9	13.4
26	六 郷 (北区)	230.7	242.7	-12.0
27	中 川 (港区)	225.8	226.3	-0.5
28	橘 (中区)	224.8	250.4	-25.6
29	広 見 (中川区)	214.7	176.6	38.1
30	白 鳥 (熱田区)	205.8	224.1	-18.3

人、名古屋港に隣接した西築地学区（港区）の1,355人の順となっている。

[附表 3-6、図 3-6]

なお、260学区のうち、「卸売・小売業、飲食店」就業者が最も多い学区が117、「サービス業」就業者が最も多い学区が78、「製造業」就業者が最も多い学区は55となっている。

[第2表]

図 3-3 学区別「製造業」昼間就業者

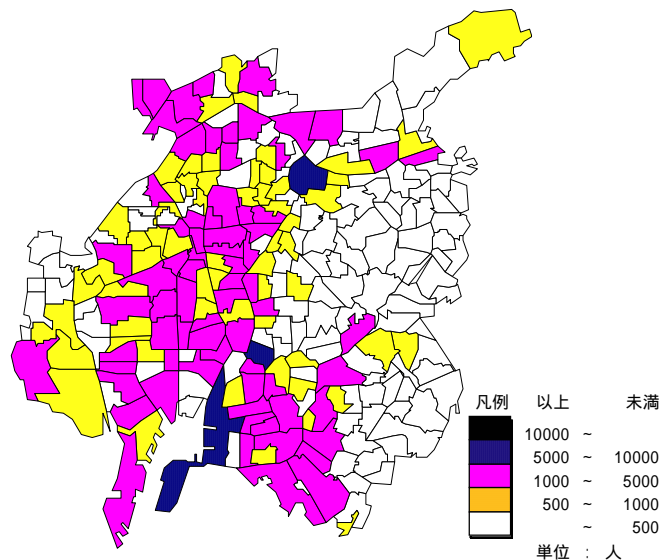


図 3-4 学区別「卸売・小売業、飲食店」昼間就業者

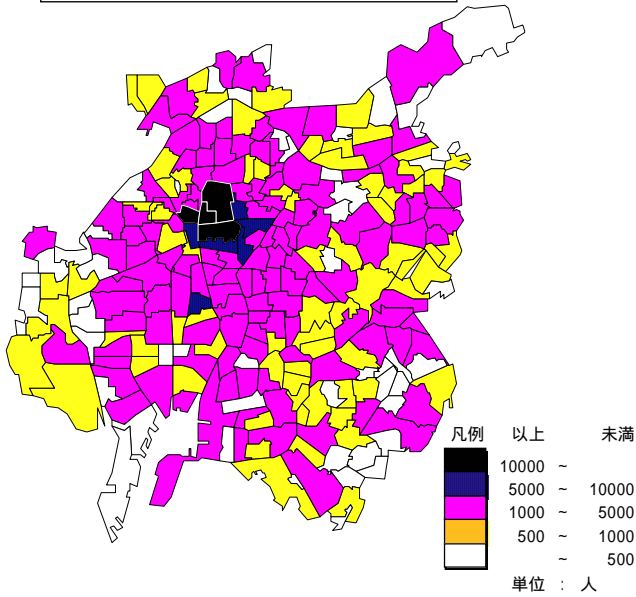


図 3-5 学区別「サービス業」昼間就業者

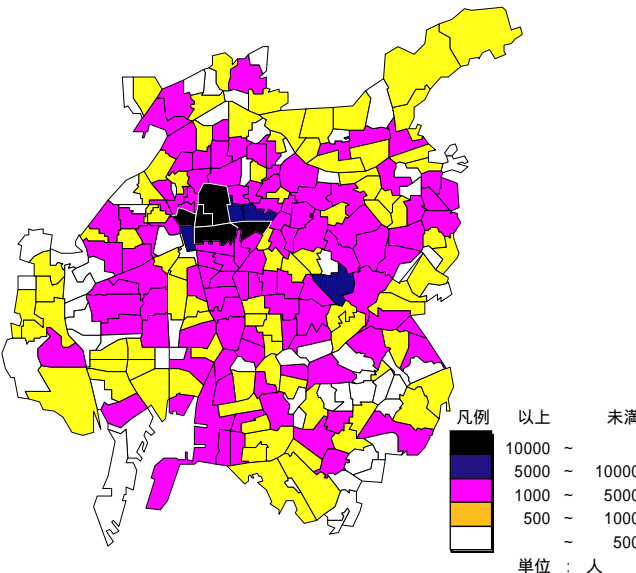
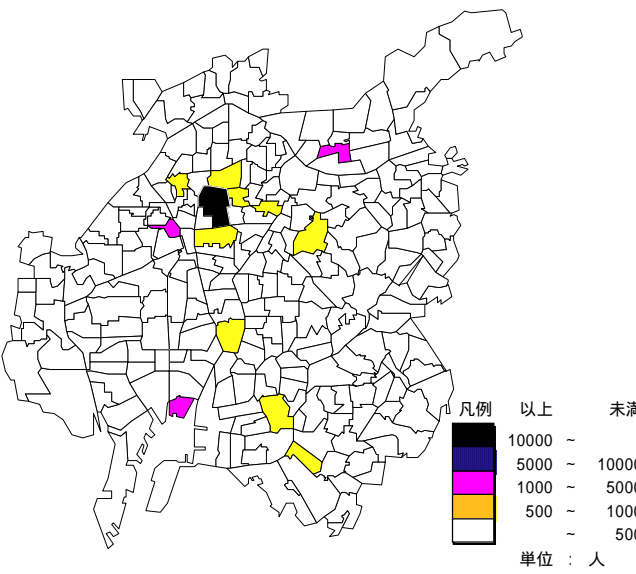


図 3-6 学区別「公務」昼間就業者



附表 3-3 「製造業」の昼間就業者数（上位 10 学区）

順位	学区名（区名）	各年 10 月 1 日				増加率 （%）
		昼間就業者数（全市に占める割合 %）				
		平成 12 年		平成 7 年		
	全 市	226,996	(100.0)	259,593	(100.0)	-12.6
1	東 築 地（港区）	8,480	(3.7)	13,068	(5.0)	-35.1
2	穂 波（瑞穂区）	6,597	(2.9)	7,535	(2.9)	-12.4
3	矢 田（東区）	6,183	(2.7)	6,952	(2.7)	-11.1
4	名 城（中区）	4,760	(2.1)	4,408	(1.7)	8.0
5	栄（中区）	4,491	(2.0)	4,356	(1.7)	3.1
6	御 劔（瑞穂区）	4,361	(1.9)	4,374	(1.7)	-0.3
7	星 崎（南区）	3,190	(1.4)	3,960	(1.5)	-19.4
8	大 高（緑区）	2,989	(1.3)	2,548	(1.0)	17.3
9	港 西（港区）	2,946	(1.3)	2,936	(1.1)	0.3
10	岩 塚（中村区）	2,932	(1.3)	3,995	(1.5)	-26.6

附表 3-4 「卸売・小売業、飲食店」の昼間就業者数（上位 10 学区）

順位	学区名（区名）	各年 10 月 1 日				増加率 （%）
		昼間就業者数（全市に占める割合 %）				
		平成 12 年		平成 7 年		
	全 市	423,443	(100.0)	456,023	(100.0)	-7.1
1	栄（中区）	26,336	(6.2)	31,600	(6.9)	-16.7
2	新 明（中村区）	25,211	(6.0)	27,816	(6.1)	-9.4
3	名 城（中区）	25,165	(5.9)	26,960	(5.9)	-6.7
4	御 園（中区）	14,677	(3.5)	18,238	(4.0)	-19.5
5	六 反（中村区）	8,480	(2.0)	8,951	(2.0)	-5.3
6	新 栄（中区）	7,719	(1.8)	9,525	(2.1)	-19.0
7	東 桜（東区）	7,620	(1.8)	9,435	(2.1)	-19.2
8	大 須（中区）	6,783	(1.6)	6,974	(1.5)	-2.7
9	老 松（中区）	5,639	(1.3)	5,689	(1.2)	-0.9
10	野 立（熱田区）	5,106	(1.2)	5,777	(1.3)	-11.6

附表 3-5 「サービス業」の昼間就業者数（上位 10 学区）

順位	学区名（区名）	各年 10 月 1 日				増加率 （%）
		昼間就業者数（全市に占める割合 %）				
		平成 12 年		平成 7 年		
	全 市	394,912	(100.0)	363,952	(100.0)	8.5
1	栄（中区）	25,334	(6.4)	23,526	(6.5)	7.7
2	名 城（中区）	20,752	(5.3)	17,183	(4.7)	20.8
3	新 明（中村区）	18,998	(4.8)	14,385	(4.0)	32.1
4	御 園（中区）	12,602	(3.2)	14,165	(3.9)	-11.0
5	新 栄（中区）	10,258	(2.6)	6,319	(1.7)	62.3
6	東 桜（東区）	7,586	(1.9)	6,622	(1.8)	14.6
7	六 反（中村区）	7,193	(1.8)	7,206	(2.0)	-0.2
8	葵（東区）	7,077	(1.8)	6,519	(1.8)	8.6
9	滝 川（昭和区）	5,362	(1.4)	4,719	(1.3)	13.6
10	牧 野（中村区）	4,841	(1.2)	5,107	(1.4)	-5.2

附表 3-6 「公務」の昼間就業者数（上位 10 学区）

順位	学区名（区名）	各年 10 月 1 日				増加率 （%）
		昼間就業者数（全市に占める割合 %）				
		平成 12 年		平成 7 年		
	全 市	38,821	(100.0)	39,193	(100.0)	-0.9
1	名 城（中区）	15,860	(40.9)	16,244	(41.4)	-2.4
2	守 山（守山区）	2,023	(5.2)	2,162	(5.5)	-6.4
3	西 築 地（港区）	1,355	(3.5)	1,323	(3.4)	2.4
4	牧 野（中村区）	1,139	(2.9)	1,236	(3.2)	-7.8
5	緑（緑区）	949	(2.4)	822	(2.1)	15.5
6	山 吹（東区）	871	(2.2)	877	(2.2)	-0.7
7	榎（西区）	789	(2.0)	835	(2.1)	-5.5
8	清 水（北区）	776	(2.0)	542	(1.4)	43.2
9	田 代（千種区）	758	(2.0)	982	(2.5)	-22.8
10	筒 井（東区）	596	(1.5)	519	(1.3)	14.8

昼間通学者が1万人を超えるのは2学区のみに

昼間通学者について、市全体としては前回の402,516人から今回の350,914人へと減少傾向にあるなか、前回3位で1万人を超えていた白鳥学区(熱田区)が前回より4,464人減少し、6,264人となった。このため、今回昼間通学者が1万人を超えるのは、11,913人の見付学区(千種区)と11,410

人の大坪学区(天白区)の2学区のみとなった。

昼間人口に占める通学者の割合は、伊勝学区(昭和区)が66.1%、見付学区が61.8%、大坪学区が60.2%と6割を超えるが、50%台はなく、続いて星ヶ丘学区(千種区)の47.9%となっている。 [附表4-1、図4-1]

附表4-1 学区別昼間通学者数(上位10学区)

各年10月1日

順位	学区名(区名)	昼間通学者数(全市に占める割合%)		昼間通学者 増加数	昼間通学者 増加率(%)	昼間人口に占める 通学者の割合(%)	昼間人口
		平成12年	平成7年				
	全 市	350,914 (100.0)	402,516 (100.0)	-51,602	-12.8	14.0	2,514,549
1	見 付(千種区)	11,913 (3.4)	11,815 (2.9)	98	0.8	61.8	19,272
2	大 坪(天白区)	11,410 (3.3)	11,644 (2.9)	-234	-2.0	60.2	18,963
3	滝 川(昭和区)	8,342 (2.4)	9,066 (2.3)	-724	-8.0	39.6	21,092
4	汐 路(瑞穂区)	7,373 (2.1)	7,798 (1.9)	-425	-5.5	41.7	17,690
5	鶴 舞(昭和区)	6,949 (2.0)	6,728 (1.7)	221	3.3	45.0	15,449
6	星ヶ丘(千種区)	6,622 (1.9)	8,038 (2.0)	-1,416	-17.6	47.9	13,817
7	白 鳥(熱田区)	6,264 (1.8)	10,728 (2.7)	-4,464	-41.6	27.6	22,715
8	伊 勝(昭和区)	6,216 (1.8)	6,387 (1.6)	-171	-2.7	66.1	9,408
9	亀 島(中村区)	5,435 (1.5)	9,106 (2.3)	-3,671	-40.3	40.2	13,536
10	大 森(守山区)	5,201 (1.5)	5,392 (1.3)	-191	-3.5	37.9	13,718

附表4-2 学区別昼夜間通学者比率(上位10学区)

各年10月1日

順位	学区名(区名)	平成12年	平成7年	上 昇 ポイント
	全 市	116.8	119.4	-2.6
1	新 明(中村区)	1,654.1	1,949.2	-295.1
2	亀 島(中村区)	1,006.5	1,164.5	-158.0
3	星ヶ丘(千種区)	989.8	1,168.3	-178.5
4	見 付(千種区)	851.5	822.2	29.3
5	鶴 舞(昭和区)	818.5	683.7	134.8
6	江 西(西区)	690.2	1,180.1	-489.9
7	大 坪(天白区)	675.9	599.3	76.6
8	六 反(中村区)	639.5	467.6	171.9
9	白 水(南区)	544.3	490.7	53.6
10	千 石(千種区)	453.8	562.2	-108.4

昼夜間通学者比率(常住通学者に対する昼間通学者の割合)についてみると、新明学区(中村区)が1,654.1、亀島学区(中村区)が1,006.5と1,000を超える学区は、前回の4学区から2学区へと減少した。

また、昼夜間通学者比率の高い学区は、昼間通学者の多い東部の文教地区のほか、市の中心部にも多く分布していることがわかる。 [附表4-2、図4-2]

図4-1 学区別昼間人口に占める通学者の割合

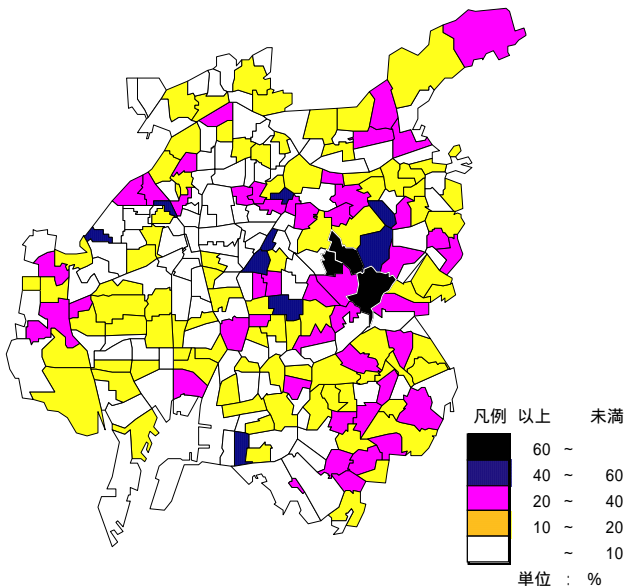
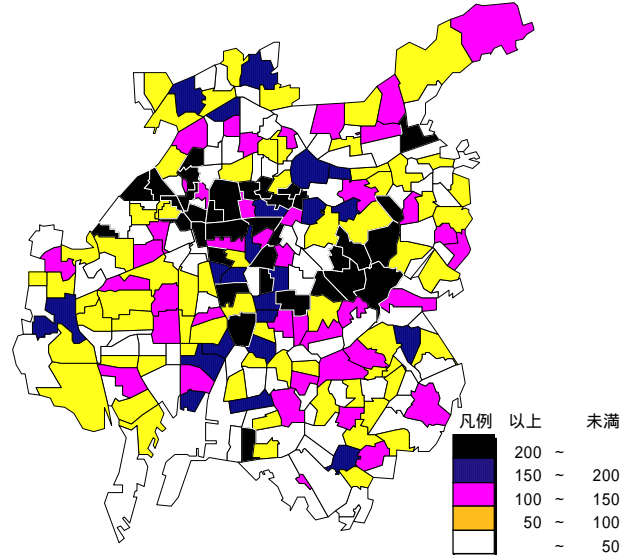


図4-2 学区別昼夜間通学者比率



用語の解説

人口

国勢調査における人口は、調査年の10月1日午前零時にあって、調査の地域内に常住している人を調査した「常住人口」である。ここで「常住している者」とは、当該住居に3か月以上にわたって住んでいるか、又は住むことになっている者をいい、3か月以上にわたって住んでいる住居又は住むことになっている住居のない者は、調査時現在居た場所に「常住している者」とみなした。

ただし、次の者については、それぞれ次に述べる場所に「常住している者」とみなしてその場所で調査した。

- 1 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校、第82条の2に規定する専修学校又は第83条第1項に規定する各種学校在学している者で、通学のために寄宿舎、下宿その他これらに類する宿泊施設に宿泊している者は、その宿泊している施設
- 2 病院又は療養所に引き続き3か月以上入院し、又は入所している者はその病院又は療養所、それ以外の者は3か月以上入院の見込みの有無にかかわらず自宅
- 3 船舶（自衛隊の使用する船舶を除く。）に乗り組んでいる者で陸上に生活の本拠を有する者はその住所、陸上に生活の本拠の無い者はその船舶

なお、後者の場合は日本の船舶のみを調査の対象とし、調査時に本邦の港に停泊している船舶のほか、調査時前に本邦の港を出港し、途外国の港に寄港せず調査時後5日以内に本邦の港に入港した船舶について調査した。

- 4 自衛隊の営舎内又は自衛隊の使用する船舶内の居住者は、その営舎又は当該船舶が籍を置く地方総監部（基地隊に配属されている船舶については、その基地隊本部）の所在する場所
- 5 刑務所、少年刑務所又は拘置所に収容されている者のうち、死刑の確定した者及び受刑者並びに少年院又は婦人補導院の在院者は、その刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院又は婦人補導院

本邦内に常住している者は、外国人を含めてすべて調査の対象としたが、次の者は調査から除外した。

- (1) 外国政府の外交使節団・領事機関の構成員（随員を含む。）及びその家族
- (2) 外国軍隊の軍人・軍属及びその家族

常住地

常住地とは、各人が常住する場所をいう。ここで「常住する」とは、同一の場所に3か月以上にわたって住んでいるか、あるいは3か月以上にわたって住むことになっている場合をいう。

従業地・通学地

従業地・通学地とは、就業者又は通学者が従業・通学している場所をいい、次のとおり区分した。

自区で従業・通学 - 従業・通学先が常住している区と同一の区にある場合

自宅 - 従業している場所が自分の居住する家又は家に附属した店・作業所などである場合

なお、併用住宅の商店・町工場の事業主やその家族従業者、住み込みの使用人などの従業先がここに含まれる。また農家漁家の人で、自家の田畑・山林や漁船で仕事をしている場合、自営の大工、左官などが自宅を離れて仕事をしている場合もここに含まれる。

自宅外 - 自区に従業・通学先がある者で上記の自宅以外の場合

他市区町村で従業・通学 - 従業・通学先が常住している区以外にある場合

市内他区 - 従業・通学先が市内の他の区にある場合

県内他市町村 - 従業・通学先が県内の他の市町村にある場合

県外 - 従業・通学先が県外にある場合

なお、他市区町村に従業・通学するということは、その従業地・通学地のある市区町村からみれば、他市区町村に常住している者が当該市区町村に従業・通学しにくるということで、これは、いわゆる従業地・通学地への流入人口を示すものである。

ここでいう従業地とは、就業者が仕事をしている場所のことであるが、例えば、外務員、運転手などのように雇われて戸外で仕事をしている人については、所属している事業所のある市区町村を、船の乗組員（雇用者）については、その船が主な根拠地としている港のある市区町村を、それぞれ従業地とした。

また、従業地が外国の場合、便宜、同一の市区町村とした。

昼間人口

昼間人口（従業地・通学地による人口）とは、従業地・通学地集計結果を用いて次式により算出された人口である。

$$\cdot A \text{市の昼間人口} = A \text{市の常住人口} - A \text{市からの流出人口} + A \text{市への流入人口}$$

ただし、この昼間人口には、買物客などの非定期的な移動については、考慮していない。これに対し、「常住人口」とは「常住地による人口」であり、「昼間人口」と対比する意味で「夜間人口」ともいう。また、常住人口、昼間人口には年齢不詳の者は含まれない。

なお、昼間人口の算出に際しては、15歳未満の通学者も含めて表章している。

なお、学区別の各種数値については、従業地・通学地集計結果及び各種統計資料をもとに統計課において推計を行ったもので、昭和40年以来今回で8回目となっている。

昼夜間人口比率

昼夜間人口比率とは、次式により算出され、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

$$\cdot \text{昼夜間人口比率} = (\text{昼間人口} / \text{常住人口}) \times 100$$

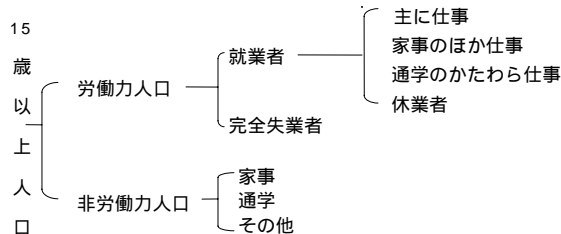
また、**昼夜間就業者比率**及び**昼夜間通学者比率**を、次式により、同様に算出した。

$$\cdot \text{昼夜間就業者比率} = (\text{昼間就業者} / \text{常住就業者}) \times 100$$

$$\cdot \text{昼夜間通学者比率} = (\text{昼間通学者} / \text{常住通学者}) \times 100$$

労働力状態

15歳以上の者について、調査年の9月24日から30日までの1週間(以下「調査週間」という。)に「仕事をしたかどうかの別」により、次のとおり区分した。



就業者 - 調査週間中、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入など収入(現物収入を含む。)になる仕事を少しでもした人

なお、収入になる仕事を持っているが、調査週間中、少しも仕事をしなかった人のうち、次のいずれかに該当する場合は就業者とした。

(1) 勤めている人で、休み始めてから30日未満の場合、又は30日以上休んでいても賃金や給料をもらったか、もらうことになっている場合

(2) 個人経営の事業を営んでいる人で、休業してから30日未満の場合

また、家族の人が自家営業(個人経営の農業や工場・店の仕事など)の手伝いをした場合は、無給であっても、収入になる仕事をしたこととして、就業者に含めた。

主に仕事 - 主に勤め先や自家営業などの仕事をしていました場合

家事のほか仕事 - 主に家事などをしていて、ほかに少しでも仕事をした場合

通学のかたわら仕事 - 主に通学していて、そのかたわら少しでも仕事をした場合

通学 - 主に通学していた場合

ここでいう通学には、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・短期大学・大学・大学院のほか、予備校・洋裁学校などの各種学校・専修学校に通っている場合も含まれる。

年齢

年齢は、調査日前日現在による満年齢である。なお、調査年の10月1日午前零時に生まれた人は、0歳とした。

産業

産業は、就業者について、調査週間中、その人が実際に仕事をしてきた事業所の主な事業の種類(調査週間中「仕事を休んでいた人」については、その人がふだん仕事をしている事業所の事業の種類)によって分類した。

なお、仕事をしてきた事業所が二つ以上ある場合は、その人が主に仕事をしてきた事業所の事業の種類によった。

平成12年国勢調査に用いた産業分類は、日本標準産業分類(平成5年10月改訂)を基に、これを平成12年国勢調査に適合するよう集約して編成したもので14項目の大分類、77項目の中分類、216項目の小分類から成っており、産業大分類の名称は次のとおりである。

- A 農業
- B 林業
- C 漁業
- D 鉱業
- E 建設業
- F 製造業
- G 電気・ガス・熱供給・水道業
- H 運輸・通信業
- I 卸売・小売業、飲食店
- J 金融・保険業
- K 不動産業
- L サービス業
- M 公務(他に分類されないもの)
- N 分類不能の産業

また、農業、漁業、林業をあわせて「農林漁業」、鉱業、建設業をあわせて「鉱業・建設業」として表章した。

学区

学区とは、小学校の通学区域であるが、中区のみ国勢統計区を用いている。

なお、平成7年国勢調査以降、平成12年10月1日までに境界変更のあった学区について、本文、別表及び統計表では平成7年の数値の組換を行っていないので、前回比較をする際には注意されたい。

図 学区名称一覧(平成 12 年 10 月 1 日現在)

